

小樽商科大学「一日教授会」を開催

商大では、市民の方々との意見交換会「一日教授会」を4年前から毎年開催しています。第5回目となる今年は、10月27日（金）小樽グランドホテルを会場に、市民の方々、商大の教職員、学生等約150名が参加して行われました。

昨年のテーマ「街の振興と活性化 - おたるの元気を取り戻せ - 」を今年も引き継ぎ、小樽の活性化のために商大のできることや、すべきことについて、昨年出されたご意見・ご提言の具体策を巡り、意見交換を行いました。

した。

今年は特に、「学生の目から見た小樽」として、3組の学生が小樽市内での活動報告や学生として小樽の活性化のために何が出来るかについて発表を行いました。後半の意見交換の場では、小樽サテライトを設置した場合の利用形態や、学生と市民との交流、大学の施設開放等について活発な意見があり、商大に対する期待の大きさを感じさせる内容となりました。

また、当日配付したアンケートにもたくさんのご意見

ご感想をいただきました。短い時間で

は話しきれない市民の方の小樽に対する、また商大に対する熱い思いが感じられ、大学の地域貢献の必要性を改めて実感した会となりました。

なお、この一日教授会の記録や、ご意見ご質問に対する回答は、商大のホームページに掲載しておりますのでご覧ください。

URL:<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/ichinichi/>



海外協定校シリーズ ①

東北财经大学(中国・大連)

商大は、国際感覚を持つ人材育成を目指して、創立以来外国語教育に力を入れ、留学生の受け入れや学生の海外派遣等、国際交流を推進しています。

現在、海外の17校と交換協定を締結して、学生や研究者の交流を図っています。今号から世界各地の協定校をシリーズで紹介することとしました。第1回目は平成8年から協定を締結し、活発に交流を続けている東北财经大学をご紹介します。

自然環境に恵まれた落ち着いたある大学

東北财经大学は、中国大連市の西部にある閑静な住宅地に位置し、中国経済の近代化を担う経済人の育成を目標に、1952年に設立された国家財政部直属の大学です。キャンパス、学生共に落ち着いたある雰囲気を持つ大学です。国際交流も積極的に進めており、世界各国から数百名の留学生を受け入れています。日本の大学とも小樽商大をはじめ、立命館大学、一橋大学等と提携を結び、たくさんの交換留学生を送っています。

本学では、平成8年の交換協定締結以降毎年受入れ留学生、派遣学生ともに人気が高く、総数は協定大学のトップを占めています。また、夏季休暇中の短期語学研修にも多くの学生が参加しています。

昨年5月には、秋山学長他教職員2名が東北财经大学を表敬訪問し、キャンパス見学や、交換留学生を交えて懇談を行う等、両校の親睦を深めました。



交換協定を締結(更新)し、懇談する秋山学長と于洋東北财经大学学長代理。